

言語学習日記

留学生 S さん*

2001 年 12 月 5 日～11 日

1 日目 2001 年 12 月 5 日

今は夜の八時二十分です。一日の授業がやっと終わりました。今日は朝起きてから、体がだるかったのですが、家に着いたらもうくたくたです。まず着替えして、その後手を洗いました。女の子として許せないくらい汚い泡がいっぱい出ました。その後、水を飲もうと思ったけど、あそこに置いてあるみかんをみると、思わず食べたくなりました。甘いものを食べると何となく元気が出てくるような気がします。そして、つい一気に三つを食べました。みかんを食べ始めるといつもこうなります。だから、私はいつも S サイズのみかんを買うのです。

今日は理論の授業でいきなり先生に「S さん、学習日記を一週間書いてください、来週みんなと一緒に分析します」と言われました。そのときは「えっ？」という気持ちでした。

実は私は中国語で日記をつける習慣があります。日記というより、「週間日記」の言い方がもっとふさわしいかもしれません。大学に入ってから、ずっと「週間日記」を書き続けて、だいたい一年間で一冊のノートを使います。でも、私の場合、悩んでいるとき日記を書きたくなるのが多いです。日記を書くことは私にとってある意味では、自己分析のプロセスです。自省したり、自分に励ましたりします。こうすると、悩みはすぐ忘れられて、元気の明るい自分に戻れるのです。留学に来るときも、その四冊の日記を東京まで持ってきました。

後、英語を勉強したとき、「diary」を書いたこともありますが、長い時間ずっと日本語を勉強していて、日本語が大好きな私は何となく英語の勉強にある程度の抵抗感を抱いています。だから、書かせられたので、書く、という意識が結構強かったです。今日のように、日本語でレポート以外のものを書くのは結構久しぶりの感じがします。でも、来週の授業のためこの学習日記を書くという意識があるので、何となく気にかけます。

では、自分の言語管理の角度から書きましょう。

■ケース 1 今日のテレミートのとき、あそこのブースにはいすが足りなかったもので、TA-Room へいすを取りに行ったときの出来事です。

「すみません、奥のブースには椅子がないので、」

「あ、そうですか？」(と TA の人が立ち上がって、椅子を一脚持ってくれた。)

「三本が必要ですが、」

「え？三つですか？」(相手が戸惑う顔をした)

「あ、三本とは言わないですね。」

「ああ、三脚ですよ。」

* 早稲田大学日本語教育研究科 修士課程 1 年

以上は私と TA の会話です。他者マーク他者調整と自己マーク他者調整二つの調整タイプがありましたね、とその後私は思いました。

なんか、最近、先生のその理論を勉強した後、はまりそうになってしまって、問題を含む発話をした度に、その理論を思い出されます。

■ケース 2 ヲ方、一休みのつもりでモスバーガーに行ったときの出来事です。入る前に、まず店の看板を見て、注文するものを決めました。私は外来語が苦手なので、一所懸命頭の中で「チキンバーガー、コンスूप、ホットコーヒー」の三つの言葉を繰り返しながら、カウンタに来ました。最初、ウェーターに「ここで召し上がりますか。」と聞かれたけど、それを無視して、覚えているうちに一気に「チキンバーガー、コンスूप、ホットコーヒーください。」と言ったのです。それを言った後何となくホットして、それで、ウェーターの二度目の「ここで召し上がるのですか」に気づいて、慌てて「はい」と答えたのです。席に座ってから、さっきの注文の場面を思い出して、反省しました。

■ケース 3 モスバーガーから 22 号館に帰る途中のことです。バス停で違うゼミの人と会ったとき、「こんにちは」とお互い挨拶した後、こっちから思わず「これからお帰りになるんですか。」と言いました。暗くて相手の表情がよく見えなかったですが、そのあと、とても疑う気持ちになりました。「彼女とはあんまり親しくないですが、年は近いですが、この場合、そのレベルの敬語を使うのは適切かな」という疑問が生じてきたのです。

私にとって、今一番悩んでいるのは、うまくありのままの自分を日本語で表現できないことです。二番目の悩みは、最近「美しい日本語」との触れあいが少ないことです。毎日論文ばかり読んで、(そんなに読んでないけど)日常生活で使う日本語の表現も限られていますので、美しい日本語の表現(文学的な表現)とはなかなか触れあえないです。冬休みのとき小説を読もう、と考えています。

1 時間も経ったので、今日の学習日記はこのぐらいにします。どうせ、今日はもう日本語で話せないから。

2 日目 2001 年 12 月 6 日

今は夜の 11 時 55 分です。あと五分経つと、7 日になります。

今朝、起きてからいつものように携帯のメールをチェックしたら、何と一気に六つの迷惑メールが入ってきました。でも、今日の迷惑メールはいつもの出会い系のものと違います。メロディを付いているのもあったし、絵文字もたくさん使いました。内容はだいたい「三時間以内でこのメールを五人に転送してください、そうしないと、あなたの周りには悪いことが起こります」のようなものです。「docomo の迷惑メール対策全然効かないね」と仕方なく、ため息をつきました。早くメールアドレスを変えてと何人の人からアドバイスをもらいましたが、変えるのが面倒だと思って、ずっとそのままほっておきましたが、今日変えなきゃ、と迷惑メールを消去しながらそう決心しました。それで、新しいアドレスに変えて、それから友達に送信しました。その後、何人から返事をもらいました。「最悪なアドレスだね」と言った人もいました。

それから、昨日の口頭表現のトピックを思い出しました。ちょうど家には空いたボトルがあったので、その中に水を入れて、水洗トイレの水槽に入れました。(P さんのアイディア) たぶん効かないと思いますけど。ところで、日本へ来てからどうしても納得できないことがあります。それは「何で水道と下水道の両方の料金を払わなければならない」という疑問です。水道は厚生労働省に所属され、下水道は国土交通省に所属されるから、この理由なら納得できません。水を使う限り、流さなければなりません。流さなくても済む水と言ったら、飲まれた水しかありません。なら、どうして別々徴収されるのですか？下水道の維持と汚れた水の処理にはお金がかかることが分かりますけど、それなら、水道料金の単価を高めればいいのに、と私は思います。こ

れと似たようなことと言ったら、新幹線のチケットです。東京から名古屋までの往復切符は何で四枚が必要なのですか？日本人は面倒だと思わないですか。それとも、こういうことを当たり前だと思っているのですか。

午後、大学を行って来ました。DDC シンポジウムに参加しました。海外の学生たちのスピーチがなかなかおもしろいと思いました。しかし、「アジア時代における日本への期待」、このテーマは抽象的すぎると思います。私なら、今一番関心のあるテーマは「この日記は来週どのようにみなさんに分析されるか」とのことです。

3 日目 2001 年 12 月 7 日

昨日と比べて、今日は本当に結構しゃべりました。

朝、いつもより少し早めに起きました。午前中は用があるので、赤坂へ行きました。その後大学行って、自習室で T さんと一緒に来週の教材教具論の発表の準備をしました。2 時間ぐらいいやりました。T さんと話すとき、やはり何度も適切な言葉を見つけられなくて、言葉に詰まったことがありました。でも、T さんは私のあやふやな日本語をよく分かってくれたので、二人のインターアクションはスムーズに行えました。

その後、名刺を作るため、14 号館へ行って来ました。別に問題はなかったです。係の人に見本を見せてもらったとき、たまたま、同じゼミの T さん、J さんと K さんの名刺があったので、何となく親しく感じました。

今日の実践の授業のとき、韓国からきた研修生たちと 1 時間話し合いました。彼らは 5 ヶ月しか勉強しなかったそうです。でも、その割に結構上手でした。とても感心しました。ある韓国人が「先生から、日本人にはどこの大学を卒業したのですかと聞くのは失礼なことだと聞きましたが、そうですか」、「日本人の女性が好きなのは芝居、蒟蒻、...と先生から聞いたが、そうですか」と質問しました。何で、こんなステレオタイプに押しつけられたのだらうと思って、あの韓国人に聞いたら、彼の日本語の先生は 60 代の方で、20 代のとき日本に留学した経験があるそうです。そう言えば、自分の似たような経験が思い出されました。日本語を勉強し始めたときのことで、学校に交流に来た日本人の高校生に「貴方が言った日本語は私のおばあさんみたいよ」と言われたことがあります。語学自身の変化はそんなに早くないかもしれないけど、その国の言葉を支えている文化背景の変化が早いねと韓国人男性の質問を聞いたときそう思いました。

帰りには、高田馬場の緑の窓口に寄って、この間買った新幹線の切符の日時を変更してもらいました。その後、ついでに通学定期のことを聞きましたが、係の人に外国人だと分かれなかったので「西武新宿線は違います」とだけ言われました。もし外国人だと分かったなら、もっと親切にしてくれるだろうと思いました。(いつもそうだから)

BIG BOX は古本の安売り場をやっていました。買うつもりがなかったのに、ふと一冊の小説に目が引かれました。なんと、「ライオンハート」というユニークな名前でした。SMAP も同じ名前の歌を歌ったことがあります。わたしはあの曲が大好きです。(曲というより歌詞のほうかな) 黒の表紙のデザインはなかなか渋い感じです。表には「たとえ、夢でも一瞬でもかまわない、誰よりも深く愛してしまったから」のような言葉が書いてあります。裏には「貴方にあった瞬間に、世界が金色に弾けるような喜びを覚えるのよ」のようなロマンティックな言葉が書いてあります。このスウィートな言葉に誘惑されて、「たまには浪漫な夢を見なきゃ」と思って、すぐ買うことにしました。作者は恩田陸という人ですが、聞いたことがありません。それから、この間買った料理の本はだいたい実践しましたから、今度違う料理を作ってみるつもりで、一冊の料理の本を買いました。今回買った本はとても厚くて、70 ぐらいも作り方があります。これで、2 年間料理の本を買わなくても済むからと心の中でつぶやいた。

今日の夕食は駅の近くの寿司屋で買ったお弁当です。お弁当を買ったとき、寿司屋の親切なおばさんに「もうお名前を覚えてますよ、愛子さんですね。」(らしい?) と言われました。それともわたしの聞き間違いか

な？でも、聞き返すのも面倒だし、また、「いいえ、わたしは外国人ですよ…」のようなワンパターンな話になるのもいやだし、そのまま、あやふやな相づちを打ちました。

家に帰ったのは夜 8 時過ぎでした。ポストには久しぶりに手紙とチラシが入っていました。池袋の新築マンションの宣伝です。わたしにくれるのは無駄だよと独り言をいいました。言語活動の多かった一日はこれで一段落を告げます。

4 日目 2001 年 12 月 8 日

今日の午後大学へ行って、T さんと 2 回目の打ち合わせをしました。帰りには馬場の駅で通学定期券を買いました。記入用紙を置いてある小さなテーブルには記入例があって、それを見たら、思わず笑いました。名前の欄には「西武花子」、「西武太郎」と書いてあったのです。中国にいたとき、「日本には一番多い名前は、鈴木、佐藤だ」のようなものを勉強したことがあります。中国では、記入例ではよく「李明」、「王紅」のような名前を使います。このような名前は実際にもよくある名前です。そういう文化背景を持っている私は日本へ来てから、「・・・花子」、「・・・太郎」の使用頻度に驚きました。水道の申込用紙の記入例は「水道花子」と「水道太郎」、早稲田の生協は「早稲田花子」と「早稲田太郎」、三菱銀行は「三菱花子」と「三菱太郎」・・・何年前、ある日本の怖い映画の中には「トイレの花子」(『学校怪談』?) という主人公がいたので、「花子」という名前を聞く度に、何となく不気味になります。

5 日目 2001 年 12 月 9 日

今日の一日はずっと勉強しました。やっと 10 本のレビューを書き終わりました。パソコンは勉強にとって、なくてはならない存在です。パソコンは人間と違って、曖昧な日本語を許してくれません。単語レベルの間違いだったら、正しく変換できません。助詞が間違えば、いつも、線を引いてくれます。厳しいパソコンのおかげで、ミスがある程度減ることができました。

勉強に疲れたとき、気分転換として、家族に電話したり、お茶を飲んだりしていました。夜、名古屋の友達に電話しました。そのとき、日本語と中国語を混ぜて話しました今日は言語活動があまりありません。パソコンを打つ時間が長くて、目が痛くなってきました。申し訳ございませんが、短いけど、今日はこのぐらいにします。

6 日目 2001 年 12 月 10 日

今日は朝起きてから、まず近くのスーパーへ行って、一週間分の食べ物を買いに行きました。昨日は風が強かったので、一日ずっと家に閉じこもって勉強しました。

あのスーパーへ行くとき、ほとんど話す必要がないです。話したときもたまにはありますが、だいたい「割り箸はいいです。」、「六匹」(レジの人にエビの数を聞かれたとき)のような短文です。でも、今日は珍しくて、初めてあのスーパーで話しました。

スーパーの一階にある特売場を通りかかるとき、いきなり屋台(スーパーの中にあるキムチと水餃子の屋台)のおじさんに声をかけられました。「お嬢さん、水餃子を召し上がってみませんか」ととても優しい声でした。普段、いつも恥ずかしくて、また自分は外国人であることを意識したので、試食なんて絶対しない私が、あのとき、何となくその熱々な餃子を受け取りました。受け取った以上、食べないわけにはいかないの

で、その瞬間、とても決まりが悪かったです。優しいおじさんはまたそのお椀にキムチを入れてくれました。それで、そこで熱い餃子を食べながら、キムチの値段を聞きました。会話は以下の通りです。

「キムチはいくらですか？」

「一個 500 円です。おいしいですよ、一個買ったらどうですか？」

「あ、もう上で買ったので（二階にもキムチを売っている）」

「それを見せて」（そう言われた私は仕方がなくて、何か悪いことをしたようで、上で選んだものを見せた。）

「これは保存料が入ってますよ。うちのは全然入ってないですよ。」

「確かにこっちのはおいしそうに見えるけど、でももうこれを選んだので…」

「大丈夫ですよ、僕があと戻しますから。お嬢さん、おまけしてあげますよ。500 円でいいですから。」

ということで、私はおじさんの商売に負けて、200 円高いおじさんのキムチを買うことにしたのです。

たぶん、おじさんは私は外国人だと全然気が付いてなかったと思います。それより、最初日本に来たとき、自分は外国人だということを意識して、否、意識しすぎて、何をやるべき、いつも慎重すぎた私にとって、スーパーでの初めての試食の経験はとても大切だと思います。ある意味で、私はありのままの自分を取り戻すための第一歩に踏み出したことを表していると言えるでしょう。

7 日目 2001 年 12 月 11 日

今日家に帰ったらもうくたくたでした。今日は三つの発表もあったので、大変でした。発表したとき、自分のいくつかの欠点に気が付きました。動詞の活用はよく間違えます。これはたぶん基礎がしっかりしていなかったせいです。あと、「てにをは」の問題です。学習日記を書いたときもよく助詞の間違いをしました。恥ずかしいことですが、私は日本語を習う時間がずいぶん長くて、話すときは流暢のように喋っているようですが、実は初級的な間違いは結構多いです。

学習日記を書くのは最後の日になりました。レポートに追われているこの忙しい時期、毎日学習日記を書くのは本当につらかったです。でも、久しぶりこういうもの（レポートではなく、自分の日常生活について書いたもの）を書くので、半分新鮮な気持ちでした。多少気分転換になりました。